

令和元年10月28日

法教育推進協議会教材作成部会委員 磯山 恭子  
(静岡大学教育学部教授)

法教育授業実施者 杉山高久  
(静岡県森町立森中学校教諭)

法教育授業実践報告  
(中学生向け法教育視聴覚教材「ルールづくり」)

1 実施日時

令和元年9月27日(金) 午前8時40分～午前9時30分(第1時限)

2 実施校等

(1) 実施校

静岡県森町立森中学校

(2) 学年

第3学年

(3) 教科等

社会科「公民的分野」

(4) 指導者

同校教諭 杉山高久

3 単元等

(1) 単元(学習指導要領における位置付け)

ごみ収集に関するルールを作ろう(中学校学習指導要領「社会科(公民的分野)」  
の大項目「(1) 私たちと現代社会」の中項目「イ 現代社会をとらえる見方や考  
え方」)

(2) 目標

ルール作成による紛争解決を通じて、社会生活におけるルールの意義及び取り  
決めの重要性やルールの必要性、それを守る意義について理解する。

(3) 指導計画

1時間目・・・「ごみ収集に関するルールを作ろう」(本時)

4 本時

(1) 目標

ア ルールについての関心を高め、社会生活におけるルールの意義について考  
える態度を養う。

イ ルール作成による紛争解決を通じて、社会生活におけるルールの意義及び取

り決めの重要性やルールの必要性, それを守る意義について理解する。

(2) 展開

進行 (所要)	内容	指導上の留意点
導入 (9分)	<p>課題(日常生活における紛争)を把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これから, ある町で起こった事件を解決するためのルールを話し合っ作るという学習をします。まず, どういう問題が起きているのか見てみよう」と発問し, 視聴覚教材「問題提起1」を視聴させる。【約6分(～6:05)】</li> <li>・「ごみ収集場所をどこにするのか, みんなにごみ出しのルールを守ってもらうにはどうしたら良いかなどを考える必要があるようだけど, 町に住んでいる人たちがそれぞれどのような考えを持っているか, 映像の続きを観て, 話し合いをする前にもう一度確認しておこう」と発問し, 視聴覚教材「問題提起2」を視聴させる。【約2分(6:05～8:20)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に自分が担当する立場を知らせておく。</li> <li>・特に自分が担当する立場の人物がどのような主張をしているのか意識して視聴するように促す。</li> </ul>
展開① (10分)	<p>紛争解決のためのルールづくり・合意形成を行わせる(立場ごとの意見の形成)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それぞれ町の人たちの立場ごとに分かれて班を作って, それぞれの立場から解決策を考えてみよう」と発問し, 同じ立場の生徒同士のグループを作り, 生徒間で話し合いを行わせる。(約10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとの役割演技に徹し, 自分たちの立場を理解し, その立場から問題の解決策を考える(町内会長役の生徒は客観的な立場から解決策を考える。)。また, 他者を説得できる案を提示する。</li> <li>・発表用のホワイトボードに町内会規約を記入させる。</li> <li>・罰則を設けることのみに着目しないよう留意する。</li> </ul>
	<p>班で作成した町内会規約を記入したホワイトボードを黒板に掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここでは, 第三者の立場にある町内会長の解決策は発表しない。</li> <li>・次の町内会の班で確認できるので発表は省略する。</li> </ul>

<p>展開② (17分)</p>	<p>紛争解決のためのルールづくり・合意形成を行わせる(各立場の者との話し合い)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それぞれの立場の人たちが考えた解決策を踏まえ、各班から1名ずつ集まって町内会の班を作り、話し合っ町内会規約を作ってみよう」と発問し、各立場1名ずつからなるグループを作り、生徒間で話し合いを行わせる。(約10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いは、第三者の立場である町内会長役の生徒を中心に行う。</li> <li>・問題点、対立点を明確にししながら、グループで話し合いをする。</li> <li>・自分の意見を主張しすぎたり、周りの意見に安易に流されたりせず、お互いに納得する話し合いをするように促す。</li> <li>・町内会規約の論点が拡散するとき(ごみ収集場所を地下に設ける、2階建てにする等というように)は、論点を整理する。</li> </ul>
	<p>生徒から発表させる。(約7分)</p>	
<p>展開③ (9分)</p>	<p>ルールの評価を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜルールが必要なのか、そして良いルールとはどのようなものなのか、その評価の視点を意識して映像を観てみよう」と発問し、視聴覚教材「解説1」、「解説2」を視聴させる。【約7分(8:20~15:10)】</li> </ul>	
	<p>ルールの評価を行わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今学んだルールを評価する4つの視点にあてはめて、みんなが作ったルールを評価してみよう」と発問し、生徒個人による振り返りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①手段の相当性、②明確性、③平等性(公正さ)、④手続の公平性の4つの視点から評価する。</li> </ul>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>教員によるまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日はみんなで町内会規約というルールを考えてもらったけど、町内会規約だけではなく、私たちが住む社会にはさまざまなルールがあるが、映像で見たように、実際に私たちの社会に存在するルールがもめごとの解決に役立っているし、みんながルールを守ることによって、安心して暮らすことができている。</li> <li>そして、誰か一人でルールを決めてしまうのではなく、みんなが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの機能について言及する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・紛争を解決する機能</li> <li>・秩序を維持する機能</li> </ul> </li> <li>・手続の公平性について言及し、ルールが多様な意見を尊重するものであることに触れる。</li> </ul>

	話し合いに参加して決めることで、 いろいろな人の意見を尊重するこ とができるルールになるし、決め たルールを納得して受け入れる ことができる。」	
--	--	--

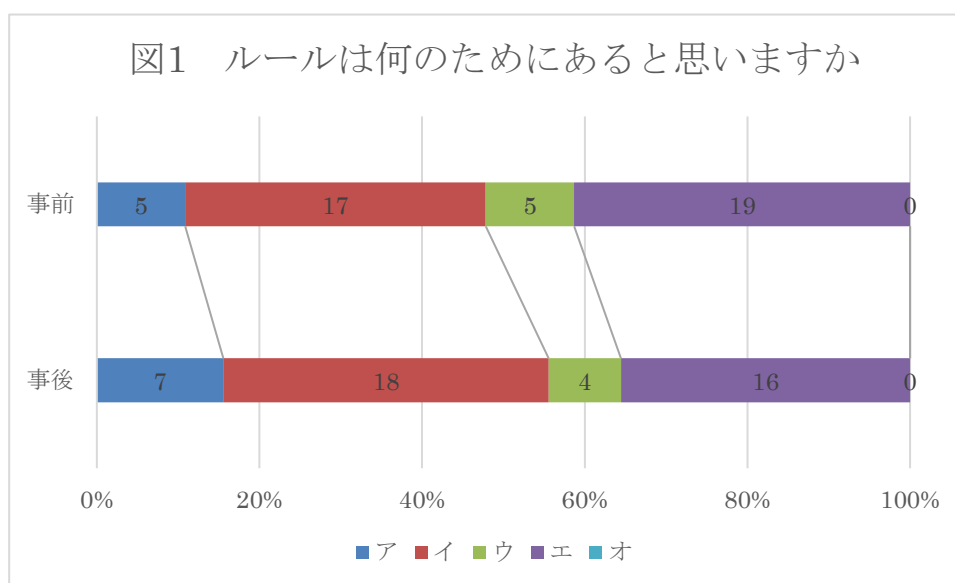
### (3) 実践報告（成果と課題など）

#### ア 成果

単元の時間配分は、2時間が理想であるが、今回の実践授業のように、映像を活用して、事例の問題把握や評価の視点説明にかかる時間を短縮することで、1時間でルール作りからルールの評価まで行うことができた。

授業前後のアンケートで、「ルールは何のためにあると思いますか。自分の考えに近いものを2つ選んでください。ア、いろいろな人たちの異なる考えや意見をまとめるため。イ、いろいろな人たちが対等に生活できるようにするため。ウ、弱い立場の人たちを守るため。エ、犯罪を防いだり、社会の秩序を守るため。オ、その他」についての質問の結果をまとめたのが図1のグラフである。事前事後を通して多いのは、イとエであるが、授業を通して増加したのは、アとイであった。今回の様々な立場に分かれて話し合っって紛争を解決した経験が反映されたように考えられる。

また、事前と事後で9名に意見の変容が見られた。ルールの意義について深く考えるきっかけとなった。また、9名中4名がアへの変容であり、ルールの意義の中でも紛争を解決する役割に対する理解の深まりが見られ、目標に迫ることができた。



#### イ 課題

実践授業では、それぞれの立場の意識をより持たせる必要があった。立場の書かれた名札を付けるなどの支援をすると効果的であった。

また、ごみ収集場所をどこにするのかという視点と、ごみ捨てのルールを分けて考えてしまっていた。ごみ収集場所をどこにするのかということも、

ごみ収集に関するルール（町内会規約）の一部であるところ、ごみの捨て方に関する適切なルールを策定することにのみ議論が集中し、過去に川上さんが被った不利益も考慮した上で、ごみの収集場所も含めたルールを考えるとの観点が少し不足していたと思われた。そのため、例えば、川上さんの家の前にこのままごみ収集場所を置き続けるのならば、川上さんへの不利益を緩和するようにごみ捨てのルールを考えるという視点も加えて考える必要があった。

## ウ 生徒の様子

### (ア) 授業での様子

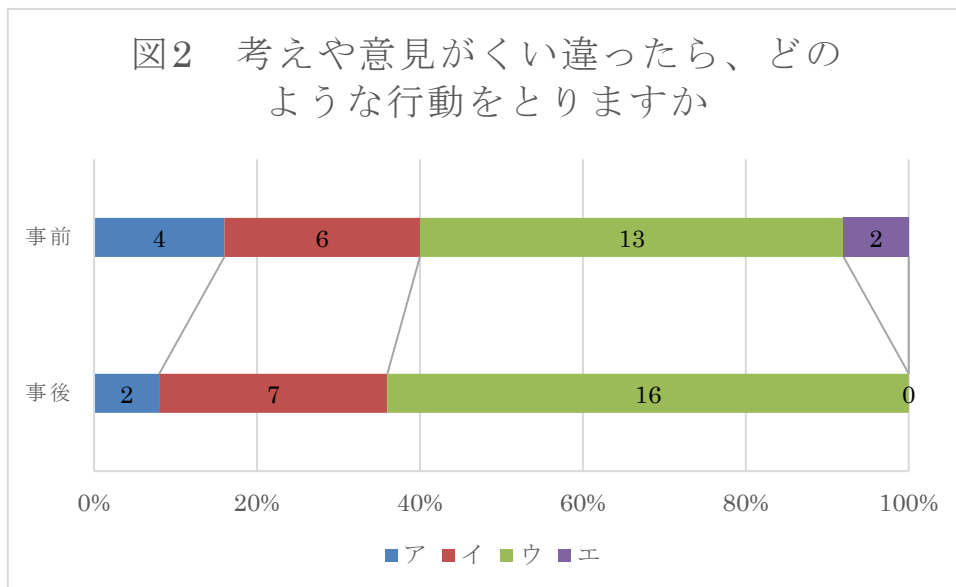
最初の同じ立場での話し合いでは、映像から読み取った自分の立場の主張を基に、ごみ収集場所、ごみ出しのルールを考えることができた。その後、5～6人の町内会の班での話し合いでは、各立場の町内会規約の発表・説明で時間がかかり、議論する時間が短くなってしまった。

また、5つの班の中で、3つの班がもともとあった川上さんの家の前、1つの班が山村さんの家の前、1つの班が3つの場所全てにごみ収集場所を設置する規約を提案した。ルールの内容として、ごみ袋に名前を書く、ごみ捨てのルールを破った人にペナルティとしてごみ捨て当番を行わせる。カラスに荒らされないようにネットを設置する、ルールが書かれた看板を設置するなどが挙げられた。ルールを評価する活動では、映像の説明が具体例を示すなど理解しやすい内容で、4つの視点の理解に役立ち、視点に応じて評価することができた。

### (イ) アンケートに見られる生徒の変容

「周囲の人たちと考えや意見がくい違ったら、あなたはどのような行動をとりますか。あなたがとるであろう行動に最も近いものを選んでください。ア、自分の考えに基づいて行動する。イ、相手の考えに合わせて行動する。ウ、お互い納得するまで話し合ってから行動する。エ、その他」という質問において事前と事後の結果をまとめたのが図2のグラフである。事後では、ウの「お互いに納得するまで話し合ってから行動する。」を選ぶ生徒が3名増加している。異なる立場で話し合っ町内会規約を作成する体験を通して、お互いに納得するような話し合いの大切さに気付くことができたと考えられる。

図2 考えや意見がくい違ったら、どのような行動をとりますか



「あなたが考える望ましいルールの決め方を書いてください。」という質問に対して、「全員で話し合う」、「納得(合意)」、「平等(不利益が偏らない)」、「明確」といった語句を使い回答する生徒が増えた。「全員で話し合う」は、25名中事前は8名だったのが、事後は13名に増加した。「納得(合意)」は10名から12名に増加。「平等」は3名から7名に、「明確」は0名から3名に増加した。そうした表れからも、ルールに対する理解の深まりが見られた。

(ウ) 映像に対する生徒の声

事後アンケートでは、「映像は、問題の理解・ルールづくりに役立ちましたか?」という質問をした。25名中24名の生徒が「はい」と答えた。その理由については、「問題の状況の整理がわかりやすかった。」、「具体的な例を提示してわかりやすかった。」、「文章だけではわかりにくいことがあった。」、「ルールをつくるときに重要なことが分かった。」という意見が出ていた。紛争の問題点の整理・理解やルールの評価の視点について効率的に行うことができた。

「いいえ」の1名の理由は、「まだ理解できなかった。」とあり、授業者の補足の支援が必要であった。

エ 実践における工夫

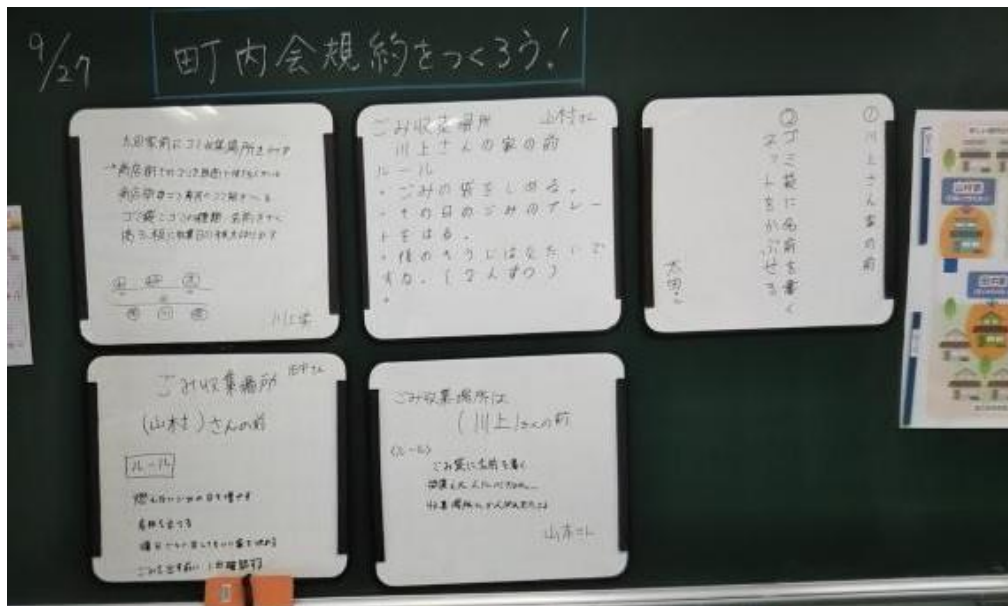
グループ分けについて、実践した学級の人数が27人だったため、6人グループを2つ、町内会長の立場を抜かした5人グループを3つにグループ分けをした。5人グループの司会は生活班の班長が行うように指名した。

(4) 参考資料 (使用教材・資料, 授業の様子・板書など)

ア ワークシート

別紙1のとおり。

- イ 授業アンケート  
別紙2のとおり。
- ウ 授業の様子・板書



- 5 参考：新学習指導要領における位置付け  
新学習指導要領 社会科「公民的分野」  
大項目「A 私たちと現代社会」  
中項目「(2) 現代社会を捉える枠組み」

対立と合意，効率と公正などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ごみ収集に関するルールづくりの単元は，ごみ出しをめぐる紛争（対立）について，立場に分かれて話し合う活動を通してお互いに納得するルールをつくる（合意）

という、「対立」から「合意」に至るプロセスを体験的に学ぶことができる教材である。さらに、新学習指導要領の内容を踏まえ、ルールを「効率」と「公正」の視点で作成・評価する方法も考えられる。

例として、第1時に「対立」と「合意」、「効率」と「公正」といった現代社会の見方・考え方などの基本的な概念を学習する。第2時に、ごみ収集に関するルールを役割分担を行いながら話し合っ決めて活動を行う。留意点として、ルールをつくる時に、「効率」と「公正」の視点を意識するように促していく。第3時に町内会のグループで作成したルールを発表し、「効率」と「公正」の視点でルールを評価する活動を行う。「効率」の視点は、無駄を省くという考え方であり、より少ない労力で解決に導いているのかを評価する。例えば、ごみ収集場所を3つ全ての場所にするという案が出た場合、ごみ回収をする立場の労力が増えて効率ではないといえる。「公正」の視点では、まずみんなが参加して決めているかという、「手続の公正さ」の評価を行う。また「不当に不利益を被っている人をなくす」、「みんなが同じになるようにする」といった「機会の公正さ」や「結果の公正さ」について評価する。そうすることで、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の見方・考え方を学ぶことができる。





## 町内会規約を作ってみよう!

### 1 グループで決定した町内会規約とその理由

①ごみ収集場所は

とします。

②その理由は

.....

.....

.....

です。

### 2 1の町内会規約を各自で評価してみよう。

A:はい B:どちらでもない C:いいえ

ルール評価の項目	評価結果	BかCに○を付けた理由
①ルールづくりにみんなが参加し、ルールを作る過程に問題はありませんか?	A B C	
②立場が変わってもその決定は受け入れられますか?	A B C	
③そのルールはいろいろな解釈ができませんか?	A B C	
④ごみ収集場所の問題を解決するという目的を実現するために適切な手段ですか?	A B C	

### 3 授業を通して、ルールについて、どのようなことを考えましたか。

.....

.....

.....



